

## 平成20年を振り返って

看護部長 岩城 美幸

### 【はじめに】

平成20年の1月下旬から、ICU・救急外来・医局等の増改築工事が始まり、12月に終了しました。7月の終わりに救急外来、10月にICU・中央採血室・生理検査室の使用が始まり、新しい施設で働けることを喜んでいました。約一年間の工事でしたが、工事中は騒音や施設の移動などで、患者さんや職員の皆様にご迷惑をおかけしました。

### 【職員の動向】

平成20年はICU稼動に合わせ看護師を30名募集しましたが、4月の時点で18名しか採用できませんでした。職員採用は年度始めに採用すると、その後は臨時採用となっていました。事務部と協議し随時採用にいただきました。その結果、7月・8月・10月・11月に計5名の採用ができました。1月から12月まで、職員・臨時職員を合わせて32名の採用、退職は25名となりました。現在、産休・育休者が年間20名近くおり、育休があけた後、時短勤務を希望する職員が増えたため、病棟の夜勤者がぎりぎりとなり、入院基本料10対1を維持するのが難しくなりました。地方の病院にとって職員採用は非常に厳しい状況のため、採用年齢を40歳から45歳に引き上げていただき、21年1月付で5名の臨時職員を職員採用にすることができました。今後できるだけ努力していきませんが、職員採用に繋がるよう年齢・働き方など柔軟に考えていきたいと思っています。

### 【認定看護師】

今年は、皮膚・排泄ケア認定看護師の他に、緩和ケア分野の認定看護師が誕生しました。現在病棟勤務で、専従での活動ができるような環境を整えることができていませんが、できるだけ専従での業務ができるようにしていきたいと考えています。また、昨年12月に感染管理分野での研修を修了した看護師が1名おり、21年5月に認定試験を控えています。認定看護師研修センターで、専門分野の知識と技術を学んだ認定看護師がいることで、より質の高い看護実践・指導・相談等ができます。20年は皮膚・排泄ケア認定看護師による2つの専門コースの研修（創傷ケア・ストーマ

ケア）を初めて行いました。研修は当院の看護師だけでなく、近隣の施設にも案内をして、多くの方に受講していただきました。当院と連携している施設と一緒に看護の質を上げていけるよう努力していきたいと思っています。

### 【TQM（小集団活動）】

以前からTQMについて書かれた本や、雑誌等で発表されたものを読み、興味を持っていました。昨年、岩見沢市立総合病院のTQM発表会を見させていただき、当院もこの手法を導入したいと考えました。名寄市立総合病院の理念・看護部の理念を実現させるために、有効な手段の一つと思ったからです。TQM活動の成果は、経営改善と医療・看護の質向上に直結します。看護部全員が一丸となって、看護サービスの質・患者満足度を向上させるため、自律能力を自らの活動で見出していき、自己責任において課題を解決していくことを目標にして研修をすることにしました。5月に多くの職員の参加で研修を終え、その後各部署で活動に取り組み、8月にヒアリングを行って講師から助言・指導をしていただきました。21年2月11日には、職員全員で取り組んだ成果を発表する予定です。

### 【看護師学校養成所2年課程（通信制）】

平成18年に1名、19年に4名、20年に5名が看護師免許を取得しました。彼女たちの活躍を見て、21年には2名の職員が進学します。今後も環境を整え、准看護師ができるだけ進学できるよう働きかけていきたいと思っています。

### 【おわりに】

平成21年の4月からDPCが導入されますが、診療部と協力して頑張っていきたいと思っています。また、11月には3回目の病院機能評価を受審します。看護科長会議で前回不十分だった項目と、全く行っていない項目について検討を重ねてきました。各種マニュアル類も少しずつ見直してはいますが、予定より進んでいない状況です。これから項目ごとにチームに分け、チームのリーダーに任せて作業を進めていきたいと思っています。